

本市では、全国学力・学習状況調査の目的でもある児童生徒の学力や学習状況の分析と、それに基づく教育施策の改善を図るため、4月より「全国学力・学習状況調査結果分析・活用検討委員会（以下「活用検討委員会」という）」を組織し、検討を行ってまいりました。この度、活用検討委員会による分析が完了し、今後の学力向上と教育指導全般において何を大切にすべきかをまとめました。この分析をもとに教育施策への活用を踏まえ、各学校と協働しながら学力向上と教育指導の充実を図っていきたいと考えております。

※調査の内容等につきましては、文部科学省のホームページをご参照ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

※本調査結果は、学力の特定の一部ではありますが、各教科で成果と課題を分析し、指導の工夫や改善等によって児童・生徒の力を伸ばしていく必要があると考えております。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査日及び調査対象

平成30年4月17日（火）市内小学校（13校）の6年生、及び中学校（9校）の3年生

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関するA問題 及び 主として「活用」に関するB問題

(2) 学習意欲や生活習慣等に関する児童（生徒）質問紙調査及び学校質問紙調査

4 調査結果の概要

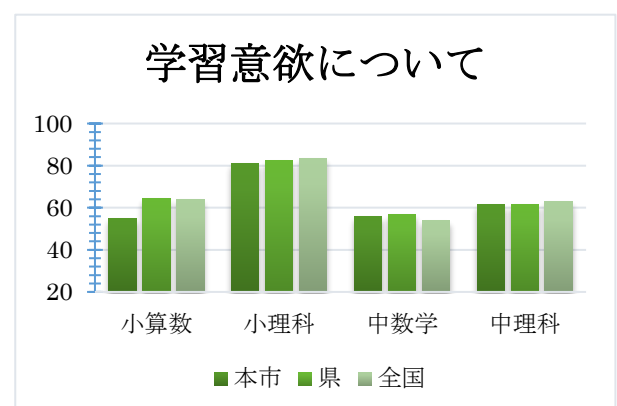
(1) 教科に関する調査の平均正答率（単位：％）

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
秦野市	66	51	60	46	58
神奈川県	70	54	64	52	60
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
秦野市	73	58	61	42	63
神奈川県	76	62	66	48	66
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

(2) 児童（生徒）質問紙に関する調査より

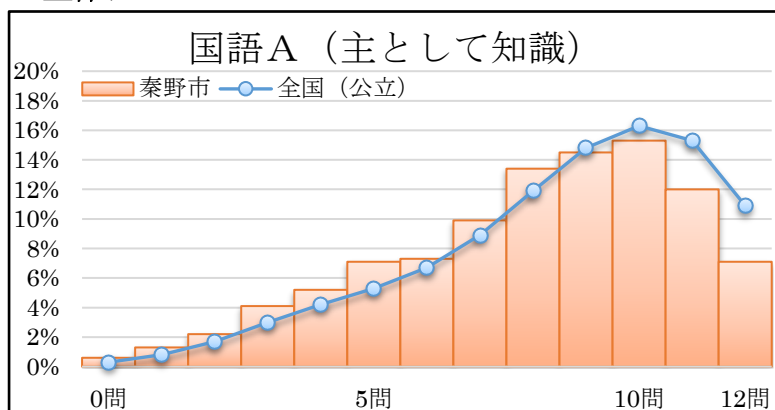
	小算数が好き	小理科が好き	中数学が好き	中理科が好き
秦野市	54.8	80.8	55.6	61.4
神奈川県	64.3	82.2	56.9	61.3
全国	64.0	83.5	53.9	62.9



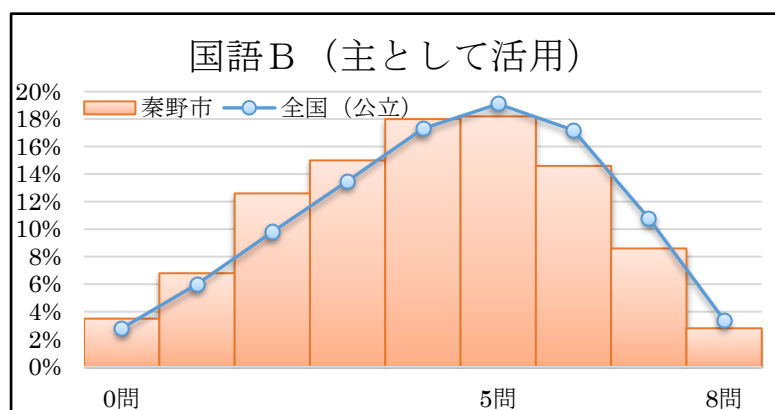
小学校「教科及び児童質問紙に関する調査」結果の分析

1 国語科

(1) 全体について



- ・平均正答数は市が8.0問で、全国は8.5問となっている。
- ・全国と比べると、11～12問正答した児童の割合が低くなっている。
- ・領域別で見ると、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について課題が見られる。



- ・平均正答数は市が4.1問で、全国は4.4問となっている。
- ・全国と比べると、2～3問正答した児童の割合が高くなっている。
- ・問題形式別で見ると、記述式についての無解答率が他の形式に比べると高くなっている。

(2) 内容について

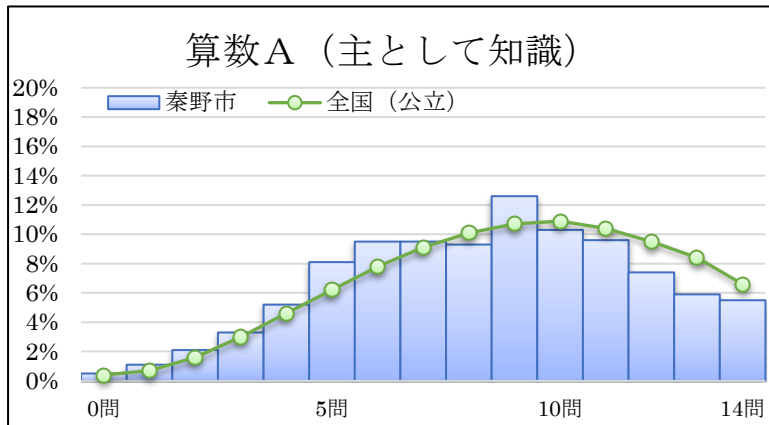
- 図書館への行き方の説明として適切なものを選択することについては、相当数の児童が理解できています。
- 計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることについては、概ね理解できています。
- 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題が見られます。
- 文の中で漢字を正しく使うことに課題が見られます。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかき読むこと、それを条件に合わせて書き表すことに課題が見られます。

(3) 学習指導にあたって

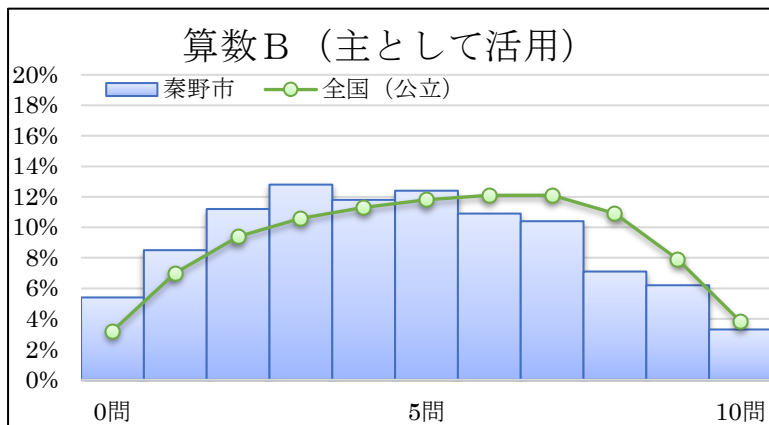
- ・相手を意識した伝え合いの学習活動が、話すこと聞くことの力につながっています。更に語彙を増やすために、漢字のテストなども単なる書き取りではなく、同じ漢字を使う熟語を集める問題や関連した言葉を漢字で書く問題などを取り入れることが有効です。
- ・文章を書く力をつけるためには、一日一行でも文章を書く習慣を身につけられるようにすると効果的です。自分の思いを伝えるための活動を設け、児童にとって必要感のある活動で伝えたいことを書く機会を増やしていくことも大切です。また、字数を制限したり書き出しを指定したりする問題に取り組むことで、書く力を伸ばしていくことが考えられます。
- ・言語能力を高めるためには、読書が有効です。きっかけ作りを含めて読書の機会を多く設ける必要があります。また、自学自習を取り入れた家庭学習に取り組んだり、新聞を含めた多様な読書等の言語活動の環境を整えたりしながら、自分の興味に合わせて本を読んだり自分の言葉で書いたりする場面を日頃から増やしていくことが大切です。

2 算数科

(1) 全体について



- ・平均正答数は市が8.4問で、全国は8.9問となっている。
- ・全国と比べると、12～14問正答した児童の割合が低くなっている。
- ・領域別で見ると、「数量関係」について課題が見られ、無解答率も高くなっている。



- ・平均正答数は市が4.6問で、全国は5.1問となっている。
- ・全国と比べると、0～3問正答した児童の割合が高くなっており、6問以上正答した児童の割合が低くなっている。
- ・領域別で見ると、「面積」について課題が見られる。

(2) 内容について

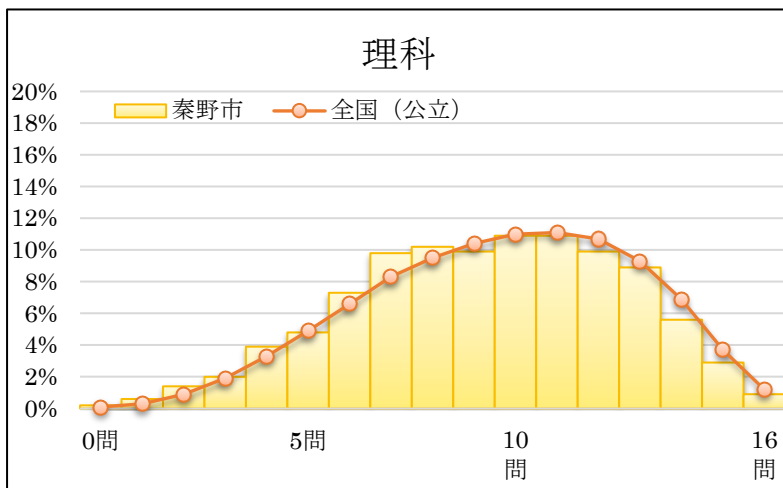
- 除法で表すことができる二つの数量の関係については、概ね理解できています。
- 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方については、相当数の児童が理解できています。
- 分度器を用いて、180度よりも大きい角の大きさを求めることに課題が見られます。
- 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から、条件に合う図形を見出すことに課題が見られます。
- メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、解釈した考えを記述することに課題が見られます。

(3) 学習指導にあたって

- ・図形の学習について、応用問題を解くためには、まず予備知識として図形の概念理解をしておく必要があります。学習活動の中で日常生活の事象と図形の学習が関連付けられるようにすることが効果的です。
- ・グラフや資料から必要な情報を読み取るためには、算数の学習に限らず、どの教科の学習においても丁寧に資料を読む取組みを充実させていくことが大切です。
- ・主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、自学自習の時間を設けることが大切です。授業の中で自分で作問する場面を設けたり、家庭学習で自分の興味・関心に合わせた課題に取り組んだりすることが効果的です。

3 理科

(1) 全体について



- ・平均正答数は市が9.3問で、全国は9.6問となっている。
- ・全国と比べると、14～15問正答した児童の割合が低くなっている。
- ・問題形式別で見ると、記述式についての無解答率が他の形式に比べると高くなっている。

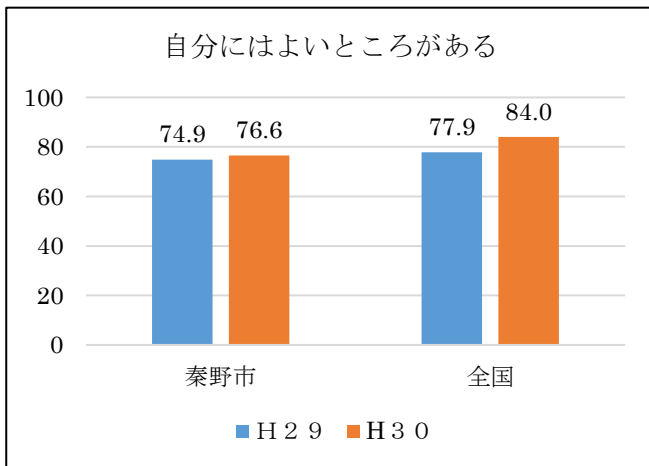
(2) 内容について

- 安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察する方法については、相当数の児童が理解できています。
- 堆積作用に関して、科学的な言葉や概念については、相当数の児童が理解できています。
- より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題が見られます。
- 乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用することに課題が見られます。
- 実験結果から言えることをまとめた内容を改善して記述することに、やや課題が見られ、無解答率も高くなっています。

(3) 学習指導にあたって

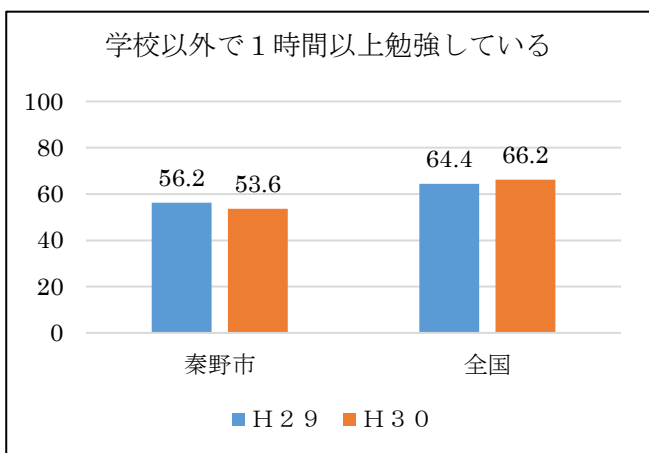
- ・本市の特長を生かして、豊かな自然環境を活用した観察や実験を通して学習を深めることが大切です。また、授業では実物に触れる体験活動を多くし、実感を伴った理解を深めることが重要です。
- ・実物を抽象化したモデルなどで説明する力をつけるためには、学習したことを生かしたものづくりに取り組むことが有効です。与えられたものだけでなく、自分で試行錯誤しながら物を作ったり、実験の手順を考えたりする体験を増やすことが重要です。
- ・科学的な思考力や判断力をつけるためには、複数の資料を関連付けて物事を多面的に捉えることが大切です。日頃から複数の情報について、どのようなことが読み取れるかを話し合ったり人に説明したりする活動やどんな分析が妥当かを話し合う活動などが有効です。

4 児童質問紙



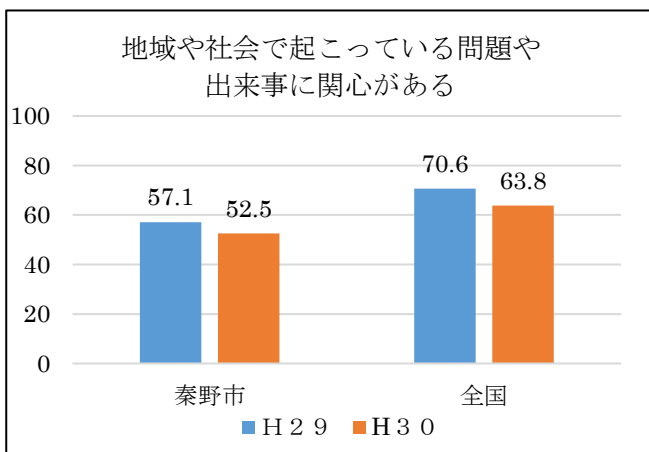
【自己肯定感】

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対しては、全国平均には及ばないものの、経年変化では、肯定的に答える児童の割合が年々高くなってきています。しかし、2割以上の児童が依然肯定的に回答しておらず、学習活動の中で関わり合いをより一層充実させる必要があります。学校でも家庭でも時間をとって「良いところ見つけ」をし、それを伝えるようにするとよいです。



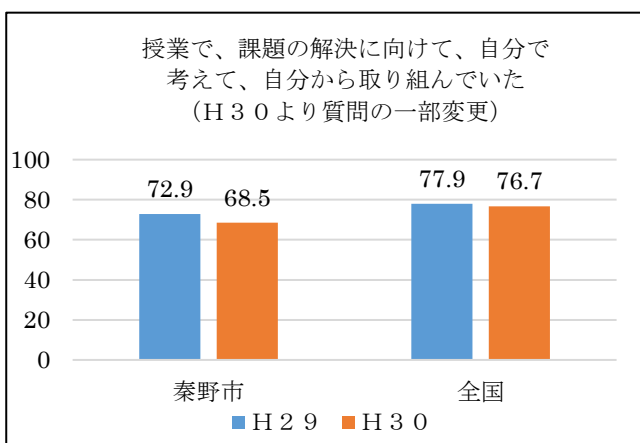
【学校以外での学習】

学校の授業時間以外で、1時間以上勉強していると答えた児童の割合は全国に比べて低くなっています。例えば、自分のやりたいことや興味のあることを自分で決めて取り組む「自学ノート」を作るなど、学校が工夫しながら放課後の学習を支援し、家庭と協力しながら、児童が計画的に学習を進められるようにすることが求められます。また本市教育研究所HPの教材を活用することも考えられます。



【地域や社会への関心】

「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の質問に対して肯定的に回答した児童の割合は5割強に留まっています。この質問に肯定的に回答した児童ほど教科の正答率が高い傾向が見られます。学校では、授業の中で地域を扱ったり実際に地域に出て行ったりすることが大切です。また家庭でも地域社会の話題を積極的に会話に取り入れるとよいです。



【主体的な学び】

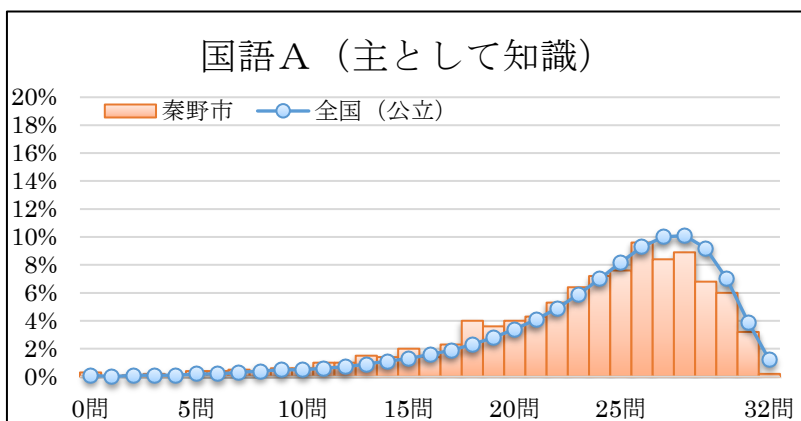
新学習指導要領の全面実施に向けて、児童が主体的に学習に取り組むことが一層求められていますが、児童の意識は高まっていない現状が見られます。どの教科においても、自分の考えを書いたり発表したりする場を増やし、児童が自分で考え自分から取り組んでいく授業への転換が求められています。教職員が意識して授業を変えていく必要があります。

	28年度 【%】	29年度 【%】	30年度 【%】	全国 【%】
自分にはよいところがある	74.2	74.9	76.6	84.0
先生はよいところを認めてくれる	78.1	83.1	75.4	85.3
夢や目標を持っている	84.9	83.0	78.3	85.1
学校のきまりを守っている	92.2	93.0	89.4	89.5
いじめはどんなことがあってもいけない	96.5	94.5	94.3	96.8
人の役に立つ人間になりたい	93.2	90.5	92.3	95.2
朝食を毎日食べている	95.2	93.6	93.2	94.5
毎日同じ位の時刻に寝ている	78.5	79.3	74.5	77.0
毎日同じ位の時刻に起きている	89.5	89.8	88.3	88.8
計画を立てて勉強している	59.3	56.4	59.7	67.6
宿題をしている	96.9	94.0	95.5	97.1
予習・復習をしている			58.6	62.6
自学自習で教科書を使う			68.2	69.9
学校以外で1時間以上勉強	55.0	56.2	53.6	66.2
読書する	78.2	77.4	76.8	81.1
家で学校での出来事を話す	80.5	76.2	75.7	80.5
学校で地域を調べたり地域の人と関わったりする			62.7	74.4
地域行事に参加	62.3	54.0	53.2	62.7
地域や社会の問題や出来事に興味がある	68.4	57.1	52.5	63.8
地域や社会をよくするために何をすべきか考える			39.6	49.9
ボランティアに参加する	34.2	29.5	26.9	36.1
地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらう			39.5	41.6
新聞を読んでいる	37.4	30.8	30.0	38.9
テレビやインターネットのニュースを見る	87.2	94.8	86.2	86.2
授業で、課題を考え、自ら取組む	74.2	72.9	68.5	76.7
自分の考えを工夫して発表した	59.5	59.8	51.5	61.0
話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできている	65.4	61.6	67.8	77.7

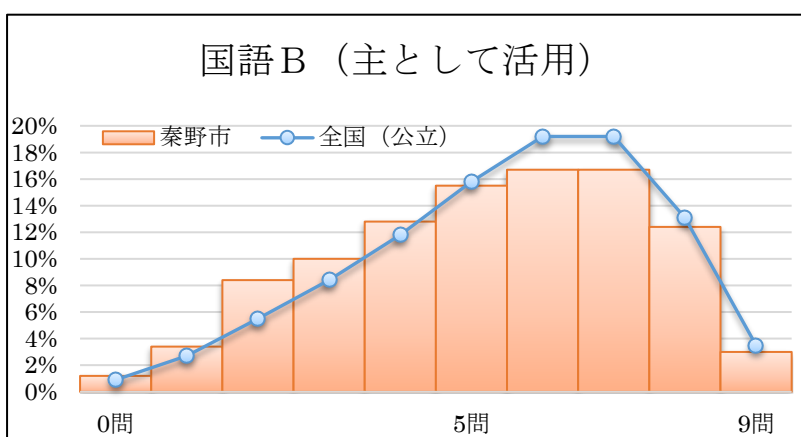
中学校「教科及び生徒質問紙に関する調査」結果の分析

1 国語科

(1) 全体について



- ・平均正答数は市が 23.3 問で、全国は 24.3 問となっている。
- ・全国と比べると、27～30 問正答した生徒の割合が低くなっている。
- ・領域別で見ると、「話すこと 聞くこと」について課題が見られる。



- ・平均正答数は市が 5.2 問で、全国は 5.5 問となっている。
- ・全国と比べると、6～7 問正答した生徒の割合が低くなっている。
- ・領域別で見ると、「話すこと 聞くこと」についてやや課題が見られる。

(2) 内容について

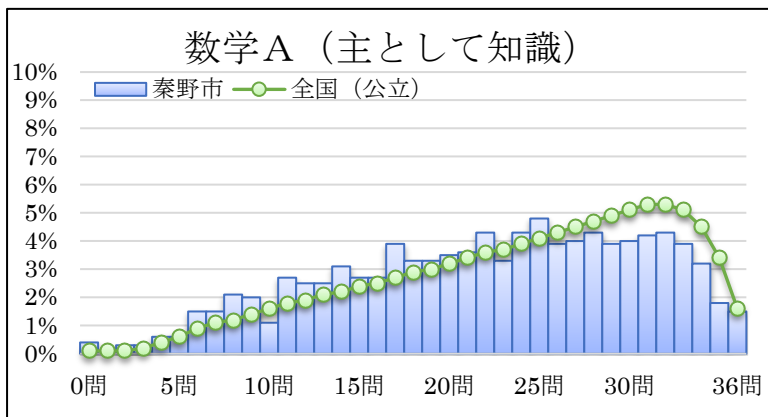
- 書こうとする事柄のまとめ方や順序を考えて文章を構成することは、相当数の生徒が理解できています。
- 接続詞の働きについては、概ね理解しています。
- 発表をまとめる際の話の進め方について正しく理解することに課題が見られます。
- 文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることに課題が見られます。
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題が見られます。

(3) 学習指導にあたって

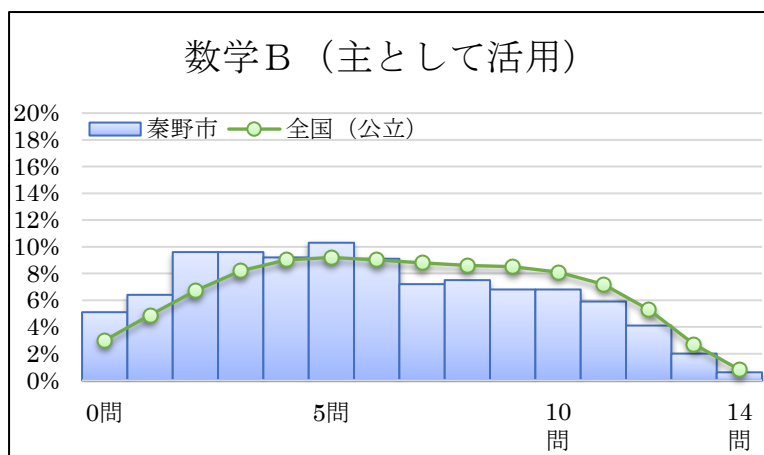
- ・資料を正しく読み取り、内容を的確にまとめて自分の言葉で構成し直す力をつけていくために、説明文の学習の際、グループワークなどを通して生徒主導での読み取りを積極的に行う必要があります。また、レポートなどを書く際には、文章にグラフや表などの資料をつけるようにすることで、生徒の視点が広がります。
- ・「話すこと聞くこと」「書くこと」については、くり返し学習する機会をつくるのが大切です。文学的文章や説明文の学習の中でも、話し合い活動や発表の場などを積極的に取り入れるなど、工夫して話したり書いたりする場面を設けることが重要です。
- ・書く力を高めるために、字数や書き出しなどの条件を制限した課題に取り組むことも有効です。例えば、一度書いた文章について字数制限を変えて書き直すなど、ゲーム的な要素を取り入れて学習に取り組むことも効果的です。

2 数学科

(1) 全体について



- 平均正答数は市が 22.1 問で、全国は 23.8 問となっている。
- 全国と比べると、30 問以上正答した生徒の割合が低くなっている。
- 領域別で見ると、「数と式」について課題が見られる。



- 平均正答数は市が 5.8 問で、全国は 6.6 問となっている。
- 全国と比べると、0~4 問正答した生徒の割合が高くなっている。
- 問題形式別で見ると、記述式の問題について課題が見られ、無解答率も高い。

(2) 内容について

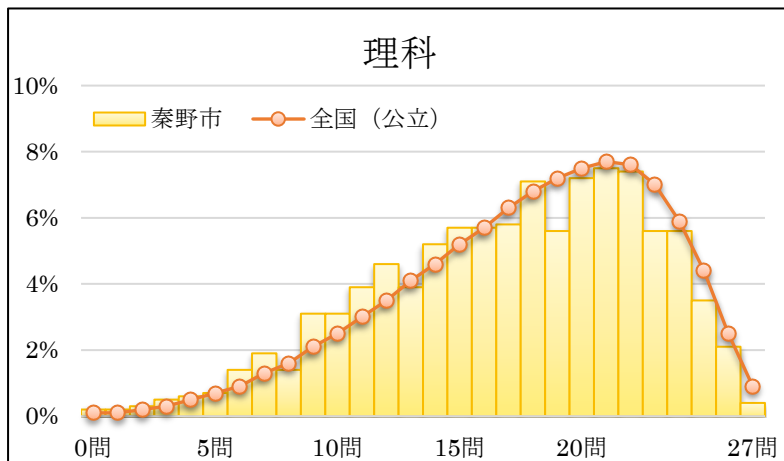
- 歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶことはできています。一次関数の利用について概ね理解できています。
- 数直線上に示された負の整数を読み取ることは相当数の生徒が理解できています。
- 指数を含む正の数と負の数の計算に課題が見られます。
- 比例のグラフから x の変域に対応する y の変域を求めることに課題が見られます。
- 順序立てて説明し、問題解決の過程を振り返って考えることに課題が見られます。また、無解答率も高いです。

(3) 学習指導にあたって

- 事柄が成り立つ理由を説明できるようになるためには、他教科も含めた言語活動の充実が必要です。授業では、学ぶ過程が見えるノートづくりを大切にしていくことが有効です。自分の考えを書く機会を増やし、間違いを恐れずに分かるところまで書くという習慣をつけることが大切です。
- 「数と式」の領域などは、くり返し問題を解くことで理解が進みます。学校では、各学年でスパイラル的に取り組むのが効果的です。家庭学習でも復習を重視することが大切です。一人でじっくりと計算に取り組む時間を確保することも考えられます。
- 学習指導要領と全国学力・学習状況調査は繋がっています。例えば調査問題を授業の導入で活用したり、学習後の適用問題として扱ったりすることで理解が深まることが考えられます。

3 理科

(1) 全体について



- ・平均正答数は市が 17.1 問で、全国は 17.9 問となっている。
- ・全国と比べると、25問以上正答した生徒の割合は低くなっている。
- ・領域別で見ると、「生物的領域」で課題が見られる。
- ・問題形式別で見ると、「記述式」についての無解答率が高くなっている。

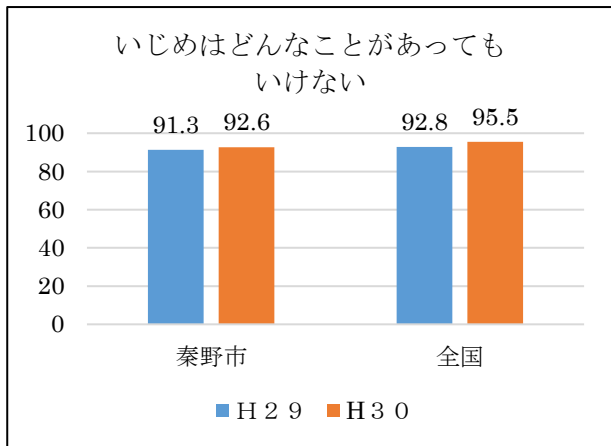
(2) 内容について

- 太平洋高気圧（小笠原気団）特徴についての知識は、概ね身につけています。
- 豆電球と豆電球型LEDの点灯の様子と電力との関係については、相当数の生徒が理解できています。
- 無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識に課題が見られます。
- 化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明することに課題が見られます。
- 神経系の働きについての知識に課題が見られます。

(3) 学習指導にあたって

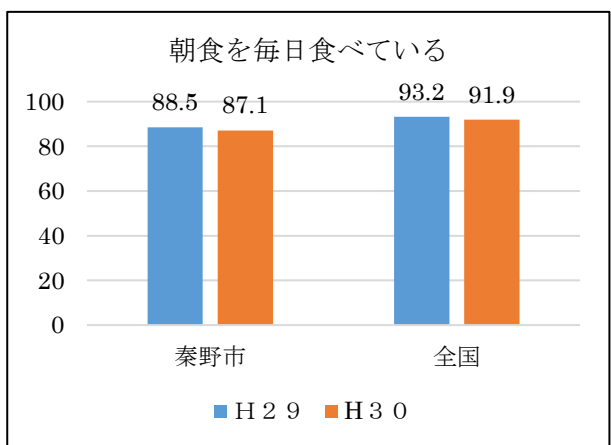
- ・動物に対する興味・関心を高め、実感を伴った理解を促すために、鮮魚店や食料品店での実体験と結びつけて学習することが有効です。生活に密着した設問には高い正答率が見られたことから、学習したことが生活とつながるように、学習活動を展開していくことが大切です。
- ・本市の特長である幼小中一貫教育の取組をさらに充実させ、小学校での学習状況を踏まえた上で中学校での学習指導が展開されていくことが重要です。実験や観察には地域の特性も関連してくるので、学校区での連携をさらに深めていくことが大切です。
- ・科学的な思考力や判断力を身につけるためには、複数の実験結果や観察結果を比較することが大切です。まずは個人で考えて、次にグループなどで考えを共有し、検討しあうことが効果的です。

4 生徒質問紙



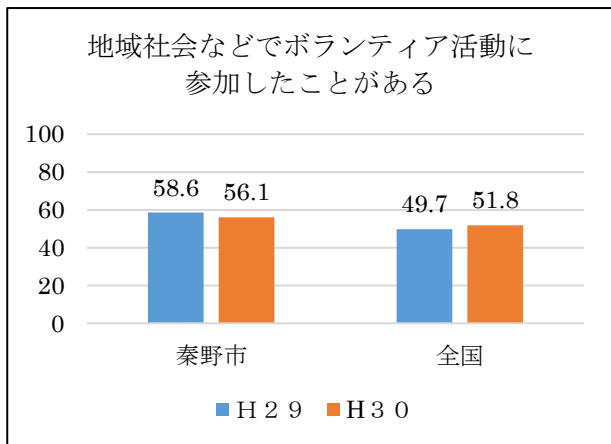
【規範意識】

「いじめはどんなことがあってもいけない」と思っている生徒は全国と同様に9割を超えており、高い水準を保っています。いじめを考える児童生徒委員会を中心とした市内の取組みが進んでおり、生徒会活動の活性化やピアサポートの取組が実を結んできています。学校では道徳や学級活動の時間などを使って、引き続きいじめを生まない学校・学級風土づくりを進めていくことが大切です。



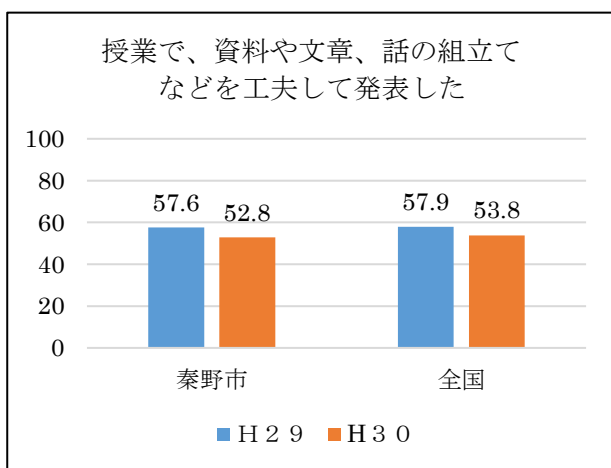
【基本的な生活習慣等】

「朝食を毎日食べている」と答えた生徒の割合は年々減少しており、全国平均と比べても課題があります。朝食に限らず、起床・就寝時間など基本的な生活習慣の定着については、家庭と学校が連携しながら生徒に働きかけていく必要があります。家庭での過ごし方を見直すことは、学習面にも良い影響があると考えられています。



【地域とのつながり】

地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合は全国平均を超えています。家庭や学校の働きかけにより積極的に参加している、本市の生徒の特長と捉えることができます。一方で、地域行事への参加や地域の出来事への関心については、課題も見られます。生徒が地域に愛着を持てるよう、地域を身近に感じられる取組を充実させていく必要があります。



【主体的な学び】

「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と答えた生徒は5割に留まっています。一方で「話し合いを通して自分の考えを深めたり広げたりできている」と答えた生徒は昨年より増加しており、自分の考えを持つことはできています。自分の考えを発表するための言語能力や表現力などは、全教科等を通して育てていく必要があります。

	28年度 【%】	29年度 【%】	30年度 【%】	全国 【%】
自分にはよいところがある	65.4	68.4	75.0	78.8
先生はよいところを認めてくれる	74.7	72.6	75.9	82.2
夢や目標を持っている	72.1	69.5	71.3	72.4
学校のきまりを守っている	92.3	92.7	93.0	95.1
いじめはどんなことがあってもいけない	91.3	91.3	92.6	95.5
人の役に立つ人間になりたい	90.4	90.3	91.8	94.9
朝食を毎日食べている	89.1	88.5	87.1	91.9
毎日同じ位の時刻に寝ている	70.6	67.4	68.6	74.2
毎日同じ位の時刻に起きている	89.6	89.0	86.6	90.3
計画を立てて勉強している	45.0	49.8	43.6	52.1
宿題をしている	85.7	80.8	84.3	91.6
予習・復習をしている			48.5	55.2
自学自習で教科書を使う			71.7	71.3
学校以外で1時間以上勉強	68.5	70.0	68.2	70.6
読書する	48.0	50.7	53.3	67.0
家で、学校での出来事を話す	72.0	70.2	69.5	76.0
学校で地域を調べたり地域の人と関わったりする			61.1	68.7
地域行事に参加	41.8	36.8	39.3	45.6
地域や社会の問題や出来事に興味がある	64.1	54.9	53.1	59.3
地域や社会をよくするために何をすべきか考える			31.4	38.7
ボランティアに参加する	59.6	58.6	56.1	51.8
地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらう			26.7	25.5
新聞を読んでいる	35.8	23.2	21.8	29.2
テレビやインターネットのニュースを見る	87.8	87.1	85.4	86.6
課題を考え、自ら取り組む	73.3	69.6	67.2	73.8
自分の考えを工夫して発表した	59.3	57.6	52.8	53.8
話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできている	64.2	60.4	70.1	76.3